

由布市災害ボランティアネットワーク連絡会設立会次第

令和3年5月20日(木)

1. 由布市長あいさつ
2. 由布市社会福祉協議会会長あいさつ
3. 大分県社会福祉協議会会長あいさつ
4. 由布市ボランティアネットワーク連絡会参加法人・団体・個人紹介
5. 年間活動計画
6. 災害ボランティアネットワーク研修

講師 NPO法人リエラ
代表理事 松永鎌矢 氏

ごあいさつ

由布市長 相馬 尊重

由布市災害ボランティアネットワーク連絡会設立会にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は大変ご多用の中「由布市災害ボランティアネットワーク連絡会設立会」にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、皆様方におかれましては、日頃より市政運営に対しましてご理解並びにご協力を賜り、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

このたびは、由布市社会福祉協議会を核とした災害ボランティアネットワーク連絡会を設立にあたりまして、市内外から多くの関係団体にご協力いただけることに大変感謝しております。

由布市では平成28年の熊本・大分地震、令和2年7月豪雨と近年の自然災害により甚大な被害を受けており、また今後も予想される南海トラフ地震をはじめとする大規模自然災害による被害が懸念されております。

災害ボランティアセンターは、災害が発生した時、行政だけでは対応できない被災地のニーズを把握し、早期の普及・復興を果たすうえで、非常に大きな役割を担っています。

被災し、心に傷を負った方々へボランティアによる支援は生活再建の礎となります。そのため災害ボランティアセンターの運営を効率的かつ効果的に行い、集まっていたいただいた多くのボランティアの方々には、多種多様なボランティアニーズにスムーズに対応していただくことが重要になります。

しかし、現在の状況では新型コロナウイルスの感染拡大により、ボランティアに来ていただける方の地域や人数にも制限を設けなければならない場合もあり、ボランティアの方自身が感染しない・させないための心構え、装備を提供しなければなりません。今後はこのように限られた人員を最大限に活用するためのノウハウの構築も必要になろうかと思っております。

地域の実情をよく知るみなさま方がネットワーク連絡会を設立し、日頃から情報共有や、研修・訓練などを実施しながら災害に備えた関係を構築し、実際にボランティアセンター開設時における役割分担や支援体制について確立していくことが大変重要と思っております。

最後になりますが、由布市災害ボランティアネットワーク連絡会の今後の活動に大きく期待をするとともに、皆様方のご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。

ごあいさつ

社会福祉法人由布市社会福祉協議会
会長 三ヶ尻 隼人

本日は、お忙しいところ、由布市ボランティア連絡会設立会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆さま方には、日頃より社協に対しまして、ご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、近年は地震、豪雨、竜巻など災害が起きない年は無い、と言われるほど毎年災害が全国のどこかで起きております。

大分県におきましては、昨年7月の豪雨、平成30年西日本豪雨、平成29年九州北部豪雨、そして平成28年の熊本・大分地震と、このところ立て続けに大きな自然災害に見舞われております。

そうした中、由布市社協では由布市との協定により、平成28年の地震と昨年7月の豪雨災害に対し、それぞれ災害ボランティアセンターを設置。被災者支援のための活動を行ったところであります。

これから先起きる可能性が高いと言われる「南海トラフ地震」、毎年のように起きる豪雨災害等を考えますと、自然災害に対して迅速に対応できる組織作りがこれまでの経験を踏まえて必要と考えております。

そのためには災害時に災害ボランティアセンターとして即応可能なネットワークを構築し、常日頃より顔の見える関係づくりを進め、非常時に情報を集約し、被災地に向け救援活動ができる体制を整える、そういうシステムを作り上げたいと考え、本日の連絡会設立に至った次第であります。

この設立にあたって、ご案内申し上げました由布市災害ボランティアネットワークに賛同していただける法人、団体、個人の皆さまが本日ここに集結し、新しいネットワークが構築されることに感謝するとともに、厚くお礼を申し上げます。

終わりに、私ども社協も「助け合いましょう」、「頑張りましょう」を合言葉に皆さま方と共に、被災者支援に取り組んで参りますので、今後とも、ご協力をよろしくお願い申し上げます、はなはだ、簡単措辞ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ

社会福祉法人大分県社会福祉協議会

会長 草野 俊介

「由布市災害ボランティアネットワーク連絡会」が由布市や関係者の多数の皆様のご参加のもと設立されますことを心よりお喜び申し上げます。

近年では毎年、全国どこかで災害が発生しており、昨年7月には由布市でも甚大な被害にあいました。由布市社会福祉協議会が災害ボランティアセンター（VC）を立ち上げ、ボランティアの受け入れと被災者の生活復旧に尽力されたことは記憶に新しいところです。

この「災害VC」は、全国から167万人ものボランティアが駆けつけた阪神淡路大震災で一部の志の高い社協等が災害VCを立ち上げ、混乱した中でも比較的スムーズな復旧・復興が行われたことから注目されるようになりました。その後、各地で地震や水害が多発、それに伴いまして被災地社協が災害VCを運営しました。東日本大震災でも、多くのボランティアと被災者をつないだのが、東北・関東地域で合計145か所設立された社協の災害VCです。大分県を始め全国の社協職員が運営支援に駆けつけました。その頃から「災害が起これば社協が災害VCを立ち上げる」ということが国民の間に定着してきました。

一方で、コロナ禍では、従来のように全国各地からの支援は期待できず、災害VCの運営もボランティアも地元で対応せざるを得ない状況が出てきています。また、30年以内に70～80%の確率で起きるといわれている南海トラフ巨大地震では、広域かつ大規模に被災し、全国のみならず、県内市町村による相互応援も厳しい可能性があります。

社協や行政、地元関係者が中心となり、災害VC運営のスタッフや専門ボランティアとして災害支援にあたる「地元の力を活かした災害VC」の必要性が高まっています。例えば、県内では日田市社協が、4年前の豪雨災害の経験をもとにネットワークを立ち上げ、毎年訓練を重ねてつながりを強化していたことで、昨年発災時のスムーズな連携につながったと伺っております。地元の力を高め、今後起こるかもしれない災害に備えておくためにも、本日の災害ボランティアネットワーク連絡協議会の設立は非常に意義深いことです。

また、平時から様々な団体が繋がることで、生活困窮者や支援が必要な障がい者、高齢者、子ども等の早期発見・早期対応も可能となります。また、いざ発災した時には、ネットワークを最大限に活かし、皆様が連携し被災された住民が1日でも早く普通の生活に戻ることができるよう期待しています。

結びに、由布市災害ボランティアネットワークの今後ますますのご発展と、皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、ごあいさつといたします。

由布市災害ボランティアネットワーク連絡会 名簿

No.	所属・団体	備考
1	由布市長	
2	由布市社会福祉協議会	
3	挾間地域自治委員	
4	庄内地域自治委員	
5	湯布院地域自治委員	
6	挾間町民生児童委員協議会	
7	庄内町民生児童委員協議会	
8	湯布院地域民生児童委員協議会	
9	由布市建設業組合	
10	由布地区LPガス協会	
11	由布市防災士会	
12	由布市商工会	
13	由布市ボランティア連絡協議会	
14	由布市災害ボランティアバイク隊	
15	コープおおいた	
16	イオン挾間店	
17	JAおおいた 庄内支店	
18	株式会社デンケン	
19	由布市福祉課	
20	由布市防災安全課	
No.	アドバイザー	備考
1	NPOリエラ 代表理事	松永 鎌矢
2	気象予報士・防災アドバイザー	花宮 廣務
3	大分県社会福祉協議会	
4	大分県消費生活・男女共同参画プラザ 県民活動支援室	

令和3年度由布市災害ボランティアネットワーク 年間活動計画

開催時期	活動内容
5月20日(木)	「由布市災害ボランティアネットワーク連絡会 設立会」 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催
7月9日(金) (予定)	「災害ボランティアセンター設置・運営訓練」(養成講座) 関係団体・一般ボランティアを対象に、災害ボランティアセンターについての理解を深め、センター設置・運営訓練を行う
9月	「由布市社協防災セミナー」 地域住民の防災意識の向上、災害ボランティア登録の促進を目的とし、幅広い年齢層を対象に開催予定
11月	「災害ボランティアセンター設置・運営訓練」(養成講座) 災害ボランティアセンターの設置・運営訓練と、建物の模型や資機材を用いた復旧支援活動の体験
2月	「由布市災害ボランティアネットワーク連絡会」 令和3年度の活動報告、災害ボランティアネットワークの役割についての講義

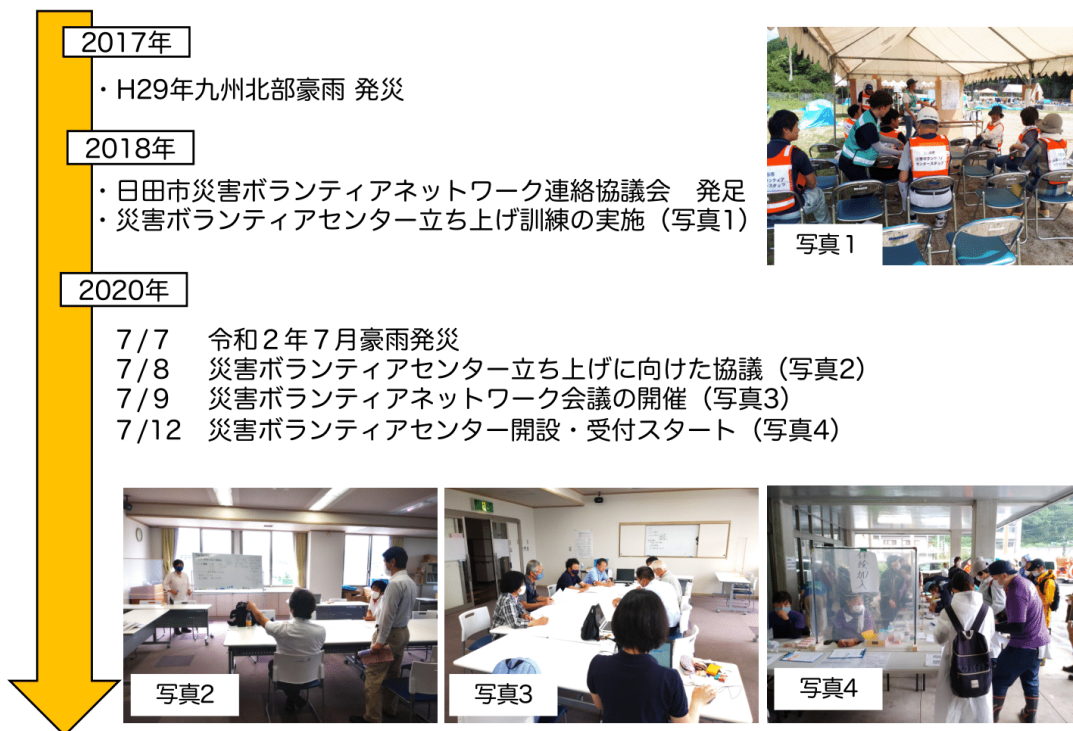


(令和2年由布市災害ボランティア 復旧支援活動の様子)

災害ボランティアネットワークの重要性 ～大分県日田市の事例から～

NPO法人リエラ
代表理事 松永謙矢

1. 日田市災害ボランティアネットワーク協議会の取り組み



2. 令和2年7月豪雨時の災害ボランティアセンターを振り返って

- ・ 災害ボランティアセンター開設に向けて、ネットワークメンバーとともに、被災状況の確認及び開設場所、開設スケジュールや役割分担を事前に協議できたため、ボランティアセンター開設がスムーズだった。
- ・ ネットワークメンバーの日田青年会議所 (JC) はボランティアの受付、日田市民生委員児童委員協議会は消毒などのサポート、日本赤十字社大分支部アマチュア無線赤十字奉仕団連絡協議会は駐車場誘導など、団体ごとに役割を明確にすることで、運営時のイメージを持ちつつ開設することができた。
- ・ 今後もコロナ禍で、県外等からの外部応援が望めない中、地元はもとより、大分県内の助け合いが求められるため、災害時の迅速な被災地支援活動を行うために、ネットワークの立ち上げ及び訓練等による研修の意義は大きい。